

ワイヤレスジャパン/WTP 2016 :

SiPを作り続けて10年、IoTが次なる飛躍の糧に

Insight SIP (インサイトSIP) は、SiP (System in Package) を手掛けるフランスのメーカーだ。2016年で設立10周年となる同社は、「ワイヤレスジャパン2016」(2016年5月25~27日/東京ビッグサイト) で、Bluetooth Low Energy (BLE) 対応のモジュールなど同社の製品群を展示した。

[村尾麻悠子, EE Times Japan]

5	13	13	1	2	0	通知	印刷/PDF
ツイート	いいね!	シェア	Bookmark	Pocket	G+		

厚さ1mm以下のBLEモジュール

Insight SIPが展示したのは、BLEモジュール「ISP1302」や「ISP1507」だ。これらのモジュールは、BLEチップセット、プロセッサ、アンテナ、DC-DCコンバーター、水晶発振子、メモリなどを搭載したSiPで、ISP1507は、ISP1302の次世代品となる。ISP1507は現在サンプル出荷中である。

ISP1507は、Nordic SemiconductorのBLEチップセット「nRF52」シリーズを搭載している。プロセッサのコアは、ISP1302の「ARM Cortex-M0」から「ARM Cortex-M4」に変更した。メモリの容量も増え、NFCも搭載している。さらに、厚さが1mm以下と薄いことも特長だ。Insight SIPのCEOであるMichel Beghin (ミッシェル・ビギン) 氏は「1mm以下にすればスマートカードに搭載できる」と、薄型化した理由を述べた。



左 = 「ISP1302」と「ISP1507」。より小型なICがISP1507/中央 = Insight SIPの製品を搭載した製品のボードが展示されていた/右 = Insight SIPのモジュールのロードマップ (クリックで拡大)

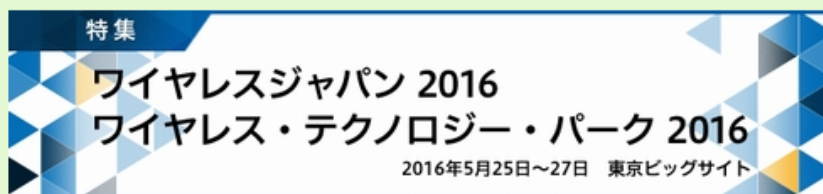
SiPを手掛けて10年

10年前、Insight SIPはWi-Fiに対応したモジュールのみを開発していた。そこから、BLEへと拡張し、3G、4Gの携帯ネットワークにも対応するようになった。出荷数も順調に伸び続け、2015年の1年間の出荷数は10万個以上になった。2016年、その勢いはさらに加速していて、同年1~4月までの出荷数は既に2015年の1年間を超えているという。

成長を後押しする要因となっているのが、IoT（モノのインターネット）だ。Insight SIPの採用事例を幾つか挙げると、スポーツやヘルスケアの分野では、走り方を解析すべくBLEモジュールを搭載したランニングシューズや、身体に張り付けて体温を計測するパッチ、歯骨根の周辺を低い光エネルギーで刺激して歯を矯正する器具（Biolux Researchの「OrthoPulse」）などがある。産業機器分野では、計測工具や振動探査計システム、装置などをリアルタイムで監視するシステム、生体電位のモニタリングシステムなどに採用されている。この他、少し変わったところでは、フランスの美顔器メーカーもInsight SIPの製品を用いている。

Beghin氏は、従来とはまったく違う、新しい分野への採用が進んでいると話す。「例えばスマートフォンでは、複数の大手メーカーが市場シェアを独占している状態で、サプライヤーも限られている。だがIoT市場は、そのあたりの事情がまったく異なる。IoT機器メーカーも、部品のサプライヤーも多岐にわたり、新たにIoT市場に参入するというメーカーも多い。こうしたメーカーに必要なのは“プラグ アンド プレイ”の製品だ。それをわれわれがSiPの形で提供する」（同氏）。

ワイヤレスジャパン/WTP 2016特集ページ



>> ↑↑↑特集ページはコチラから↑↑↑<<